

## 令和元年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表 令和元年度ヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率				
		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率 (%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町	(94)	0.0	(1.1)
	加東市社町	(94)	1.1	(4.3)
	加東市滝野町	(94)	0.0	(0.0)
	西脇市黒田庄町	(94)	2.1	(1.1)
	多可町加美区	(94)	1.1	(0.0)
	加古川市志方町	(94)	0.0	(2.1)
	西部地域	神河町	(94)	5.3
	宍粟市山崎町	(94)	1.1	(2.1)
	佐用町	(94)	5.3	(4.3)
	上郡町	(94)	0.0	(3.2)
平均			1.6	(2.0)

供試虫: 令和元年5月23日、5月24日、5月30日、5月31日に小麦ほ場から採取した。  
 検定: 簡易エライザ法による。令和元年6月17日～6月28日に実施した。

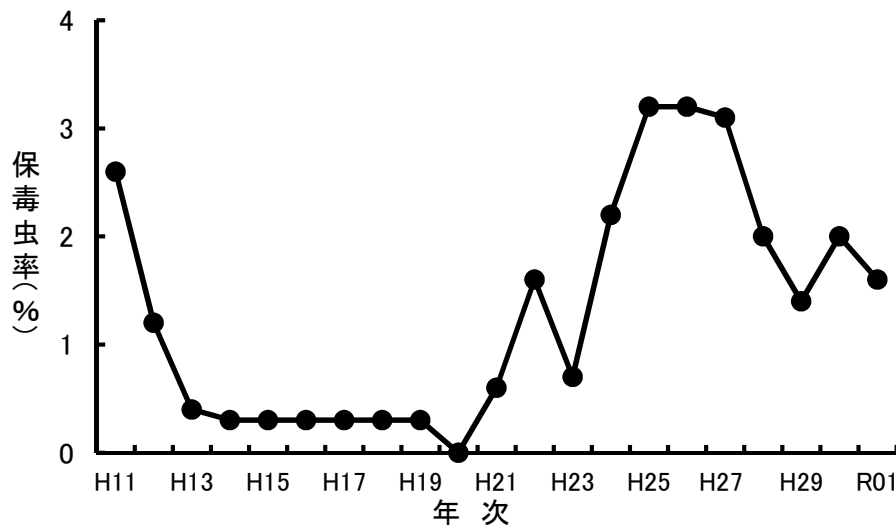


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

平成21年以降、第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が増加傾向にあり、水稻でのイネ縞葉枯病の多発を警戒している。

本年の第1世代虫(水稻へ飛び込む世代)の保毒虫率は、定点平均で1.6%と昨年(2.0%)に比べて若干低い値を示したが、5月下旬のすくい取り調査では、密度が128頭/10回振と前年の37頭よりも多い発生量となっていた。一部地域では高い保毒虫率(5.3%)を示す地域もあり、イネ縞葉枯病の発病には依然として注意が必要である。

水稻生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病を助長させるため、発病株をできる限り早く抜き取り、感染拡大を防止する。詳しくは、「イネ縞葉枯病防除マニュアル」ならびに広報動画「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」を参照すること。

- ・イネ縞葉枯病防除マニュアル

(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/shimahagare%20Version%201.01.pdf>)

- ・広報動画「ヒメトビウンカおよびイネ縞葉枯病の総合防除」

(<https://www.youtube.com/watch?v=yeVWNWSuL8U&feature=youtu.be>)